

第2分科会

里山からの 地域づくり

～体験をとおして見つける地域の魅力～

担当団体／能美の里山ファン倶楽部

「里山」は、今、地域づくりにおいて、最も注目されている資源と言っても過言ではない。そんな自然豊かなフィールドの中に、「地域の魅力」を再発見するとともに、「弱みを強みに変える地域づくり」について考えていく。当日は、「能美の里山ファン倶楽部」の活動フィールドを巡り、見学やフィールドディスカッション、ミニガイドハイク等の体験ができるバスツアーを実施。それぞれの地域における取り組みの可能性を探るとともに、活動の持続性や異業種との連携による今後の展開について意見交換を行う。

コーディネーター

谷内 博史 氏 (やち ひろふみ)

七尾市街づくりセンター(株) 事業部長

石川地域づくり協会コーディネーター

能美の里山ファン倶楽部

能美の里山ファン倶楽部は、里山の自然や景観、歴史、生活文化、産業などを「守る・深める・活かす」の3つのキーワードで人を育み、里山を守り育て、地域力を高めながら日本一活力のある地域づくりを目指しています。

<http://www.nominosatoyama.com/>

1. 分科会の趣旨

第2分科会では、「里山からの地域づくり」～体験をとおして見つける地域の魅力～ということで、能美の里山ファン倶楽部(以下、当会)が分科会の運営を担当しました。コーディネーターには、石川地域づくり協会(以下、協会)コーディネーターの谷内博史さんをお迎えし分科会が行われました。

2. 開催レポート

午前10:30より本会場の石川ハイテク交流センターで受付し、男女25名の当日の参加がありました。当会の会員の参加の他、遠くは高山市からの他、市内外から多くの参加がありました。



受付の様子

午前11:00に石川ハイテク交流センターを出発し、当会の紹介を兼ねた体験バスツアーが行われました。



バスに乗り込む参加者



車内の様子

バスは事前に計画したルートで里山地区を巡り、随時地域の紹介と当会の取り組みなどが紹介されました。特に林道を通るルートなどもあり、具体的な里山の環境にふれることができました。

最初に訪れた場所は、市内にある県立の辰口丘陵公園です。ちょうどこの日に開催されていた辰口柚子まつりを見学（参加）しました。会場では、柚子のお話や、当会の柚子の再生への取り組みが当会コーディネーターの谷田直樹(たにだなおき)より紹介されました。会場で参加者は特産品の柚子や柚子ドリンクなどの加工品をお土産に購入していました。

次に訪れた場所は、仏大寺(ぶったいじ)町にある遣水(やりみず)観音霊水堂です。遣水観音霊水については、新たに平成20年度に平成の名水百選に選出された水の湧き出る場所です。地元仏大寺町会の保全の取り組みが



会場の様子

評価され選出されたと聞いており、そんな仏大寺町の取り組みが当会会長の畑中茂伸(はたなかしげのぶ)より紹介されました。



紹介の様子



水を汲む参加者

続いて会長の案内で、仏大寺町を散策しました。当会主催の「ほっこりまつり」のイベントを紹介しながら、小さな里山の集落の魅力が紹介されました。



仏大寺町散策の様子



小さなメッセージ

昼食会が、仏大寺公民館で行われました。地元町会や当会会員による手づくりのもてなしがなされました。里山の恵みをふんだんに使った料理が出され、今は珍しくなってしまった里山の料理に参加者は大変満足していました。ここでは、昼食をとりながら映像資料などを見て、当会の取り組みや「ほっこりまつり」のこと、「遣水観音霊水」のことが紹介されました。同時に、ここでは、里山地区の代表として仏大寺町の住民のご意見なども伺いでき、参加者からの積極的な質問なども聞くことができました。



昼食会の様子

午後は、当会の活動フィールドの一つの瀧浪（たきなみ）フィールドに移動して、当会

が設置した炭窯の瀧浪窯（たきなみがま）を見学しました。ちょうどこの日は、当会の自主グループの炭一会（すみいちかい）の炭焼き工程の中の窯出しの日で、炭一会のメンバーにより炭焼きのことが紹介されました。



瀧浪窯での様子

炭窯を後にし、フィールドを当会スタッフの安田二三男（あんだふみお）の案内により、散策しました。フィールドには能美市の景勝七ツ滝があり、フィールドでは道づくりのことや森づくり（伐採や植栽）のことが随時当会会員より紹介されました。



散策の様子

本会場へ戻り、協会の谷内博文コーディネーターの進行で「里山からの地域づくり」というテーマのもとでワークショップを中心として意見交換が行われました。



ワークショップの様子

第2分科会 参加者アンケート

■分科会を選んだ理由

- ・対象エリアに今年行く機会が多く、さらに課題を共有したいと思った
- ・倶楽部の現状、問題点の解決のヒントが得られれば、との思いから
- ・ファン倶楽部の活動に興味があったため
- ・里山の活性化のアイデアを知りたかった
- ・中山間地への興味があった
- ・里山の活動に協力したいため
- ・能美の里山ファン倶楽部会員
- ・知人に頼まれて
- ・地域づくり
- ・仕事に活かすため

■分科会はいかがでしたか

- ・盛りだくさんの上、素敵な景観、おいしい手作り料理で、和やかな中で地域を見せてもらった
- ・仏大寺の皆さんとの交流、里山散策などを体験できて、取り組みがよくわかった
- ・良いフィールドを見ることができた。意見交換も問題解決の糸口が見つかったようでよかった
- ・それぞれの意見が聞けてよかった。フィールドツアーが面白かった。ファン倶楽部の活動、すごいと思う。現場で話を聞くことができて楽しかった
- ・期待に沿う、内容のあるものでした。強みの再認識、弱みの把握と改善等々今後への大きなヒントを得られた
- ・過去3年の能美の里山ファン倶楽部活動の反省と今後の方向が見えた
- ・十分に評価でき、自身の活動につながる
- ・難しかった
- ・有意義であった
- ・新しい発見をした